



みなみ筑後の大豆づくりによみ

作成：令和6年12月
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

大豆づくりはまず土づくりと適期播種から

令和7年産

喜ばれる「みなみ筑後」の大豆づくり重点事項

- (1) 収量・品質の向上
 - ①収量向上対策の徹底(土づくり、連作の回避、排水性の改善)
 - ②基本技術の励行(適期播種、排水対策、中耕・培土、病害虫・雑草防除)
 - ③種子更新率100%
- (2) 安全・安心な大豆生産
 - ①栽培履歴・GAP(農業生産工程管理)の全出荷者記帳・提出
 - ②農薬適正使用と飛散防止対策の徹底
 - ③発生予察に基づく適期防除による農薬使用回数の低減

月	旬	主な作業	作業内容
6	上	品種	「ちくしB5号」とする。[品種特性表]参照 [施肥基準]参照
	中	土づくり	PHの矯正 6.0程度に矯正 e-green 4-4-20 40kg/10aを投入 地力増強のため麦ワラや堆肥などの有機物や、ミネラルG 200kg/10a、土力の素45kg/10aを投入し、地力を維持する。
	下	(雑草防除)	[除草剤基準]参照
7	上	種子消毒	キヒゲンR-2フロアブルを種子1kg当り20ml塗沫またはキヒゲンを種子1kg当り10g粉衣する。(鳥の食害防止)または、クルーザーMAXXを種子1kg当たり8ml塗沫する。(鳥の食害防止-ネキリムシ対策-湿害軽減)
	中	耕起・播種	ロータリー耕で充分砕土を行い、同時に播種する。 ※梅雨明け後は、ほ場が乾燥し過ぎる前に、速やかに5cm以上の深さで播く。 ※鳥害回避の為一斉播種を行う。部分浅耕播種や組作業で適期播種を行う。
	下	雑草防除	[除草剤基準]参照
8	上	補植	欠株が多い場合は、密植部分から根に株元の土を多くつけた状態で補植する。 (追播は、成熟期が異なるため行わない)
	中	中耕・培土	播種後15日頃(本葉3枚頃)
	下	中耕・培土	播種後25~30日頃(本葉5枚頃)
9	上	害虫防除(ハスモンヨトウ)	[病害虫防除基準]参照 ※白変葉(ハスモンヨトウ孵化直後)の手取り除去を行う。
	中	病害虫防除(ハスモンヨトウ)(カメムシ類)(紫斑病)	[病害虫防除基準]参照 ※8月中下旬の防除と9月上中旬の防除は必ず行う。また、9月上中旬の防除時は、3種混合で行う。
	下	畦間かん水	子実肥大期に、ほ場が乾燥しすぎるようであれば、かん水を実施する。
10	上	青立株抜取り	刈り取り前に、青立ち株や雑草を抜取る。
	中	成熟期	成熟期は大部分が落葉し、莢を振ると音をたてる程度に乾燥した時期
	下	刈取	刈取適期は、成熟期~成熟期後10日頃まで(汎用コンバインでの刈取は成熟期後7~14日頃)
11	上	脱粒	脱粒機は、損傷粒が発生しないように回転数に気をつける。
	中	乾燥	葉/全部落ちて残っていない。 莢/指でさわってもベトつかない。 莢を振るとカラカラ音がする。(水分20%以下)
	下	調整	茎/乾いて、指でさわってもベトつかない。(水分50%以下、できれば40%以下) 子実/噛むと歯型がつく。(水分17%以下)



品種特性表

品種名	開花期	成熟期	主茎長	耐倒伏性	10a当り子実重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	67cm	やや強	366kg

※7月10日播種

播種時期・栽植密度規準 (2粒点播の場合)

播種時期	7月5日~19日(適期播)	7月20日以降(遅播)
播種量(kg/10a)	3.0~5.0	6.0~7.0
条間、畦幅(cm)	70、140	
株間(cm)	25	15~20

施肥基準

播種時期	10a当り	
	7月上旬~中旬(適期播)	7月下旬以降(遅播)
土壤改良材	ミネラルG 200kg 土力の素 45kg	
土壤改良材入り肥料	e-green 4-4-20 40kg	

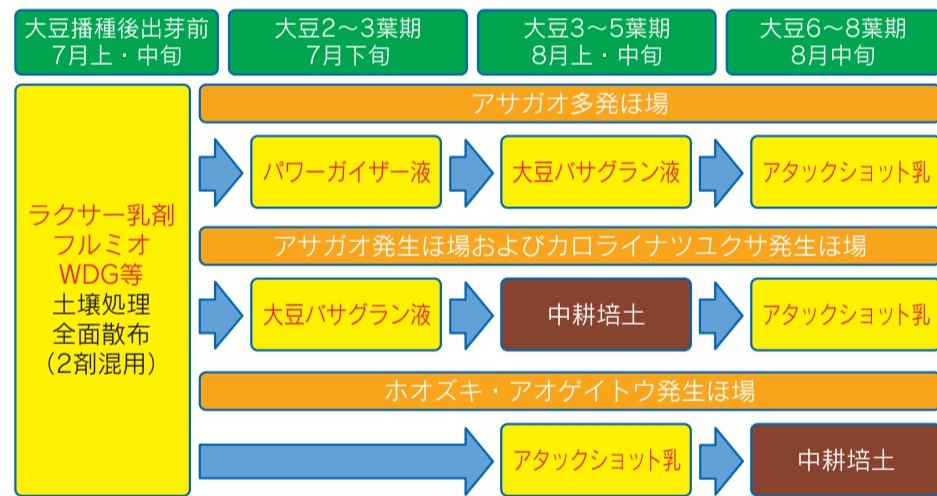
除草剤基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	10a当り希釈水量	使用上の留意点
播種前(雑草が多い場合)	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	25~100ℓ	飛散防止対策を徹底する
	ザクサ液剤	300~500ml	100ℓ	
播種後出芽前(雑草発生前)	ラクサー粒剤	4~8kg	—	砕土を丁寧に行い、覆土を十分に行う
	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	1年生雑草
	フルミオWDG	5~10g	100ℓ	ホオズキ類、ホリアゲイトウ、ラクサー乳剤と混用
雑草生育期(8月)イネ科雑草3~10葉期	ポルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)収穫30日前まで
大豆2葉期~開花前	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	アサガオ類、カロライナツユクサ、収穫45日前まで
	アタックショット乳剤	30~50ml	100ℓ	

※特にフルミオWDGを使用する場合は、散布器・タンク・ホース・ノズルは専用の洗浄剤で丁寧に洗浄する。

難防除雑草の防除法

アサガオ類やホオズキ等の防除は、初期除草剤散布のみでは不十分であるため、中期除草剤、中耕培土を組み合わせ、実施する。



病害虫防除基準

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当り使用量	使用回数	備考
発生時	マメハンミョウ	スミチオン乳剤	1,000倍 水100ℓ	4回以内	1回目の防除でスミチオン乳剤とノーマルト乳剤を混用する。
8月中~下旬	ハスモンヨトウ	ノーマルト乳剤	2,000倍 水100~150ℓ	2回以内	無人航空機散布
		アクセルフロアブル	8~16倍 0.8ℓ		
9月上中旬	ハスモンヨトウ	アクセルフロアブル	2,000倍 水100~150ℓ	3回以内	無人航空機散布
		プロフレアSC	4,000倍 水100~150ℓ		
	カメムシ類	スタークル液剤10	32倍 0.8ℓ	2回以内	無人航空機散布
		トッジンM水和剤	1,000倍 水150ℓ		
紫斑病	アミスター20フロアブル	8倍 0.8ℓ	4回以内	無人航空機散布	
	アミスター20フロアブル	16倍 0.8ℓ			

※高温年には、成熟期後半まで加害が続くので、2回目防除を必ず実施する!!



ネキリムシ類被害
※ガードベイトA 3kg/10a または クルーザーMAXX



ハスモンヨトウ
白変葉
6齢幼虫



マメハンミョウ



カロライナツユクサ



アサガオ類



ホオズキ類



ホゾアゲイトウ

農薬適正使用と飛散防止対策を徹底しましょう!

南筑後農業協同組合 農畜産課 TEL(63)8814
 南筑後普及指導センター TEL(62)4191
 瀬高グリーンセンター TEL(62)4111
 山川グリーンセンター TEL(67)1214
 高田グリーンセンター TEL(22)3218
 大牟田グリーンセンター TEL(56)8915